



R コマンド


この章では、R で始まる Cisco Nexus 1000V コマンドについて説明します。

radius-server deadtime

デバイスによって使用されるすべての RADIUS サーバのデッドタイム間隔を設定するには、**radius-server deadtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server deadtime *minutes*

no radius-server deadtime *minutes*

構文の説明	<i>minutes</i>	デッドタイム間隔の分数。有効な範囲は 1 ~ 1440 分です。
デフォルト	0 分	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	デッドタイム間隔は、以前応答しなかった RADIUS サーバをデバイスがチェックするまでの分数です。	
 (注)	デフォルトのアイドル タイマー値は 0 分です。アイドル タイム インターバルが 0 分の場合、RADIUS サーバの定期的なモニタリングは実行されません。	

例

次に、すべての RADIUS サーバの定期的なモニタリングを実行するグローバル デッド タイム間隔を設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# radius-server deadtime 5
```

次に、すべての RADIUS サーバのグローバル デッド タイム間隔をデフォルトに戻して、サーバの定期的なモニタリングをディセーブルにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# no radius-server deadtime 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show radius-server</code>	RADIUS サーバ情報を表示します。

radius-server directed-request

ログイン時にユーザが認証要求を特定の RADIUS サーバに送信できるようにするには、**radius-server directed-request** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server directed-request

no radius-server directed-request

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ログイン時、*username@vrfname:hostname* を指定できます。*vrfname* は、使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) インスタンスで、*hostname* は、設定した RADIUS サーバ名です。ユーザ名が認証用に RADIUS サーバに送信されます。

例

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の RADIUS サーバに送信できるようにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# radius-server directed-request
```

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の RADIUS サーバに送信できないようにする例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# no radius-server directed-request
```

関連コマンド

コマンド	説明
show radius-server directed-request	指定要求 RADIUS サーバ設定を表示します。

radius-server host

RADIUS サーバパラメータを設定するには、**radius-server host** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
radius-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret [pac]] [accounting]
[acct-port port-number] [auth-port port-number] [authentication] [retransmit count]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds [retransmit count]]
```

```
no radius-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret [pac]] [accounting]
[acct-port port-number] [auth-port port-number] [authentication] [retransmit count]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds [retransmit count]]
```

構文の説明

<i>hostname</i>	RADIUS サーバの Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) 名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 256 です。
<i>ipv4-address</i>	A.B.C.D 形式の RADIUS サーバの IPv4 アドレス。
<i>ipv6-address</i>	X:X:X::X 形式の RADIUS サーバの IPv6 アドレス。
key	(任意) RADIUS サーバ事前共有秘密キーを設定します。
0	(任意) RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリアテキストで指定された事前共有キーを設定します。これはデフォルトです。
7	(任意) RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有キー (7 で表示) を設定します。
<i>shared-secret</i>	RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有キー。事前共有キーには、出力可能な ASCII 文字の使用が可能です (空白文字は使用できません)。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。
pac	(任意) Cisco TrustSec と連動させるために、RADIUS Cisco Access Control Server (ACS) で Protected Access Credentials (PAC) の生成をイネーブリングにします。
accounting	(任意) アカウンティングを設定します。
acct-port port-number	(任意) アカウンティング用の RADIUS サーバのポートを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 65535 です。
auth-port port-number	(任意) 認証用の RADIUS サーバのポートを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 65535 です。
authentication	(任意) 認証を設定します。
retransmit count	(任意) デバイスがローカル認証に戻る前に RADIUS サーバ (複数可) への接続試行を行う回数を設定します。有効な範囲は 1 ~ 5 回で、デフォルトは 1 回です。
test	(任意) テスト パケットを RADIUS サーバに送信するようにパラメータを設定します。
idle-time time	サーバをモニタリングするための時間間隔を分で指定します。有効な範囲は 1 ~ 1440 分です。
password password	テスト パケット内のユーザ パスワードを指定します。パスワードは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。

username <i>name</i>	テスト パケット内のユーザ名を指定します。ユーザ名は、英数字で指定します。大文字と小文字の区別がなく、最大文字数は 32 です。
timeout <i>seconds</i>	RADIUS サーバへの再送信タイムアウト (秒単位) を指定します。デフォルトは 5 秒で、有効な範囲は 1 ~ 60 秒です。

デフォルト

パラメータ	デフォルト
アカウントिंग ポート	1813
認証ポート	1812
アカウントिंग	イネーブル
認証	イネーブル
再送信回数	1
アイドル時間	none
サーバ モニタリング	ディセーブル
タイムアウト	5 秒
テスト ユーザ名	test
テスト パスワード	test

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

アイドル タイム インターバルが 0 分の場合、RADIUS サーバの定期的なモニタリングは実行されません。

例

次に、RADIUS サーバの認証とアカウントिंगのパラメータを設定する例を示します。

```
n1000v# config terminal
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 key HostKey
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 auth-port 2003
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 acct-port 2004
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 accounting
n1000v(config)# radius-server host radius2 key 0 abcd
n1000v(config)# radius-server host radius3 key 7 1234
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 test idle-time 10
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 test username tester
n1000v(config)# radius-server host 10.10.2.3 test password 2B9ka5
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show radius-server</code>	RADIUS サーバ情報を表示します。

radius-server key

RADIUS 共有秘密キーを設定するには、**radius-server key** コマンドを使用します。設定した共有秘密キーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server key [0 | 7] *shared-secret*

no radius-server key [0 | 7] *shared-secret*

構文の説明		
	0	(任意) RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有キーを設定します。
	7	(任意) RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有キーを設定します。
	<i>shared-secret</i>	RADIUS クライアントとサーバ間の通信を認証するために使用される事前共有キー。事前共有キーには、出力可能な ASCII 文字の使用が可能です (空白文字は使用できません)。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。

デフォルト クリア テキスト

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザ ロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン RADIUS サーバに対してスイッチの認証を行うには、RADIUS 事前共有キーを設定する必要があります。キーの長さは 63 文字で、出力可能な任意の ASCII 文字を含めることができます (スペースは使用できません)。グローバル キーは、スイッチにあるすべての RADIUS サーバ コンフィギュレーションで使用するよう設定できます。このグローバル キーよりも優先するキーを個々のホストに割り当てるには、**radius-server host** コマンドの **key** キーワードを使用します。

例 次に、RADIUS 認証を設定する各種のシナリオを提供する例を示します。

```
n1000v# config terminal
n1000v(config)# radius-server key AnyWord
n1000v(config)# radius-server key 0 AnyWord
n1000v(config)# radius-server key 7 public pac
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show radius-server</code>	RADIUS サーバ情報を表示します。

radius-server retransmit

デバイスが RADIUS サーバで要求を試行する回数を指定するには、**radius-server retransmit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server retransmit *count*

no radius-server retransmit *count*

構文の説明

<i>count</i>	デバイスがローカル認証に戻る前に RADIUS サーバ（複数可）への接続試行を行う回数。有効な範囲は 1 ～ 5 回です。
--------------	---

デフォルト

再送信 1 回

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、RADIUS サーバに再送信回数を設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# radius-server retransmit 3
```

次に、RADIUS サーバに再送信のデフォルト数を設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# no radius-server retransmit 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show radius-server	RADIUS サーバ情報を表示します。

radius-server timeout

RADIUS サーバへの再送信間隔を指定するには、**radius-server timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

radius-server timeout *seconds*

no radius-server timeout *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	RADIUS サーバへの再送信間隔の秒数。有効な範囲は 1 ～ 60 秒です。
デフォルト	5 秒	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。
例	次に、タイムアウト間隔を設定する例を示します。 <pre>n1000v# config t n1000v(config)# radius-server timeout 30</pre> 次に、デフォルトの間隔に戻す例を示します。 <pre>n1000v# config t n1000v(config)# no radius-server timeout 30</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show radius-server	RADIUS サーバ情報を表示します。

rate-mode dedicated

指定したポートに専用レート モードを設定するには、**rate-mode dedicated** コマンドを使用します。

rate-mode dedicated

no rate-mode

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルト値は共有レート モードです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

指定したポートに専用レート モードを設定するには、**rate-mode dedicated** コマンドを使用します。

32 ポートの 10 ギガビット イーサネット モジュールでは、4 ポート単位で 10 Gbps (ギガビット/秒) の帯域幅を処理します。レートモード パラメータを使用すれば、この帯域幅を 4 ポートのうちの最初のポート専用にする場合、4 ポート全体でこの帯域幅を共有させることもできます。



(注)

帯域幅を 1 つのポート専用にする場合、最初にそのグループのポートを管理シャットダウンしてレートモードを専用に変更し、専用ポートを管理的にアップする必要があります。

表 1 に、10 Gbps ごとの帯域幅を共有するポートのグループと、帯域幅全体を利用するために使用するグループの専用ポートを示します。

表 1 共有ポートと専用ポート

帯域幅を共有する ポート グループ	10 ギガビット イー サネットの帯域幅 を専用するポート
1、3、5、7	1
2、4、6、8	2
9、11、13、15	9
10、12、14、16	10
17、19、21、23	17

表 1 共有ポートと専用ポート

帯域幅を共有する ポート グループ	10 ギガビット イー サネットの帯域幅 を専用するポート
18、20、22、24	18
25、27、29、31	25
26、28、30、32	26

rate-mode dedicated コマンドを入力すると、10 Gb の全帯域幅が 1 つのポートに専用に割り当てられます。帯域幅を専用にすると、以後のポートのサブコマンドはすべて専用モードになります。

例

次に、イーサネット ポート 4/17、4/19、4/21、および 4/23 の専用レート モードを設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# interface ethernet 4/17, ethernet 4/19, ethernet 4/21, ethernet 4/23
n1000v(config-if)# shutdown
n1000v(config-if)# interface ethernet 4/17
n1000v(config-if)# rate-mode dedicated
n1000v(config-if)# no shutdown
n1000v(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	現在のレート モードである dedicated を含む、インターフェイス情報を表示します。

record

NetFlow フロー レコードを設定するには、**record** コマンドを使用します。フロー レコード コンフィギュレーションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
record {name | netflow ipv4 {original-input | original-output | netflow protocol-port} | netflow-original}
```

```
no record {name | netflow ipv4 {original-input | original-output | netflow protocol-port} | netflow-original}
```

構文の説明

name	新しい NetFlow フロー レコードの名前を指定します。
netflow ipv4	従来の IPv4 NetFlow 収集スキームを使用する、事前定義済みの NetFlow フロー レコードを指定します。
original-input	従来の IPv4 入力を使用する、事前定義済みの NetFlow フロー レコードを指定します。
original-output	従来の IPv4 出力を使用する、事前定義済みの NetFlow フロー レコードを指定します。
netflow protocol-port	プロトコルおよびポート集約スキームを使用する NetFlow フロー レコードを指定します。
netflow-original	起点 AS に基づく従来の IPv4 入力を使用する NetFlow フロー レコードを指定します。

デフォルト

なし

コマンド モード

フロー モニタ コンフィギュレーション (config-flow-monitor)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SV1(4)	このコマンドは、 protocol-port 属性を netflow protocol-port に変更するように修正されました。
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

フロー レコードは、フロー内のパケット、フローごとに収集されるカウンタのタイプなどの NetFlow が収集する情報を定義します。新しいフロー レコードを定義するか、あらかじめ定義されたフロー レコードを使用できます。

例

次に、事前定義された従来の IPv4 入力 NetFlow レコードを使用するようにフロー レコードを設定する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor testmon
n1000v(config-flow-monitor)# record netflow ipv4 original-input
n1000v(config-flow-monitor)#
```

次に、事前定義された従来の IPv4 入力 NetFlow フロー レコードの設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# flow monitor testmon
n1000v(config-flow-monitor)# no record netflow ipv4 original-input
n1000v(config-flow-monitor)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show flow monitor	NetFlow モニタ設定情報を表示します。
show flow record	NetFlow レコード設定情報を表示します。

reload

冗長ペアのプライマリおよびセカンダリ VSM の両方をリブートするには、**reload** コマンドを使用します。

reload

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

冗長ペアの VSM のうち 1 つだけをリブートするには、**reload module** コマンドを代わりに使用します。

リロードする前に、前回のリブートまたは再起動以降の設定変更を保持するために、**copy running-configuration to startup-configuration** コマンドを使用します。

リロードを実行後、手動で VSM を再起動する必要があります。

例

次に、プライマリおよびセカンダリ VSM の両方をリロードする例を示します。

```
n1000v(config)# reload
!!!WARNING! there is unsaved configuration!!!
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y
2010 Sep  3 11:33:35 bl-n1000v %PLATFORM-2-PFM_SYSTEM_RESET: Manual system restart from
Command Line Interface
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload module	冗長ペアの指定した VSM (1 または 2) をリロードします。

reload module

冗長ペアの VSM のうち 1 つをリロードするには、**reload module** コマンドを使用します。

reload module *module* [**force-dnld**]

構文の説明	<i>module</i>	モジュール番号は、次のとおりです。
		<ul style="list-style-type: none"> • 1 (プライマリ VSM) • 2 (セカンダリ VSM)
	force-dnld	(任意) ネットブートおよびイメージダウンロードを強制するために指定されたモジュールをリブートします。

デフォルト なし

コマンドモード 任意

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン 冗長ペアの両方の VSM をリブートするには、**reload** コマンドを代わりに使用します。リロードする前に、前回のリブートまたは再起動以降の設定変更を保持するために、**copy running-configuration to startup-configuration** コマンドを使用します。リロードを実行後、手動で VSM を再起動する必要があります。

例 次に、冗長ペアのセカンダリ VSM である VSM 2 をリロードする例を示します。

```
n1000v# reload module 2
!!!WARNING! there is unsaved configuration!!!
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y
2010 Sep  3 11:33:35 bl-n1000v %PLATFORM-2-PFM_SYSTEM_RESET: Manual system restart from
Command Line Interface
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show version	ソフトウェアバージョンに関する情報を表示します。
	reload	プライマリ VSM とセカンダリ VSM の両方がリブートされます。

remote

リモート マシンに接続するには、**remote** コマンドを使用します。接続を切断するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
remote {ip address address | hostname name}
```

```
no remote {ip address address | hostname name}
```

構文の説明

ipaddress	IP アドレスを指定します。
<i>address</i>	IPv4 アドレス。形式は、A.B.C.D です。
hostname	リモート ホストの名前を指定します。
<i>name</i>	ホスト名。有効な値の範囲は、1 ~ 128 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

SVS 接続コンフィギュレーション (config-svs-conn)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、リモート マシンに接続する例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)# svs connection svconn1
n1000v(config-svs-conn)# remote hostname server1
n1000v(config-svs-conn)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show svcs	SVS 情報を表示します。

resequence

リストのシーケンス番号を振り直すには、**resequence** コマンドを使用します。

resequence {{**ip** | **mac**} **access-list**} | **time-range**} *name number increment*

構文の説明

ip	IP アクセス リストの番号振り直しを示します。
mac	MAC アクセス リストの番号振り直しを示します。
access-list	アクセス リストの番号振り直しを示します。
time-range	時間範囲の番号振り直しを示します。
<i>name</i>	(任意) リストの名前です。
<i>number</i>	(任意) 開始シーケンス番号です。
<i>increment</i>	(任意) シーケンス番号の増分の大きさです。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**aclOne** という名前の MAC ACL の最初のエントリの番号を振り直す例を示します。

```
n1000v# configure terminal
n1000v(config)# resequence mac access-list aclOne 1 2
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show access-list	ACL を表示します。

rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir [filesystem:[//module/]]directory
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。名前では、大文字と小文字が区別されません。
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory</i>	ディレクトリの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

ディレクトリが現在の作業ディレクトリから削除されます。

コマンド モード

任意

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**my_files** ディレクトリを削除する例を示します。

```
n1000v# rmdir my_files
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

role name

ユーザ ロールを作成するには、**role name** コマンドを使用します。ロールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

role name *role-name*

no role name *role-name*

構文の説明

role-name この名前のユーザ ロールを作成します。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、UserA という名前のロールを作成する例を示します。

```
n1000v # config t
n1000v(config)# role name UserA
```

次に、UserA ロールを削除する例を示します。

```
n1000v(config)# no role UserA
```

関連コマンド

コマンド	説明
show role	使用可能なユーザ ロールとその規則を表示します。
interface policy	このロールに割り当てられたユーザは、特に許可されている場合を除いて全インターフェイスへのアクセスが拒否されます。
permit interface	このロールに割り当てられたユーザにアクセスを許可するインターフェイスを指定します。
vlan policy	このロールに割り当てられたユーザは、特に許可されている場合を除いて全 VLAN へのアクセスが拒否されます。
permit vlan	このロールに割り当てられたユーザにアクセスを許可する VLAN を指定します。

rule

ユーザ ロールの基準を定義するルールを作成するには **rule** コマンドを使用します。ルールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
rule number {deny | permit} {read | read-write [feature feature-name | feature-group
group-name] | command command-name}
```

```
no rule number
```

構文の説明

<i>number</i>	このルールを識別する番号です。
deny	機能の実行権をユーザが拒否されていることを示します。
permit	機能の実行権をユーザが許可されていることを示します。
read	割り当てられたユーザに読み取りアクセス権があるかどうかを指定します。
read-write	割り当てられたユーザに読み取りと書き込みアクセス権があるかどうかを指定します。
feature	(任意) ルールの機能を指定します。
<i>feature-name</i>	個々の機能 (syslog や TACACS+ など) の名前です。この機能に対するアクセス権をこのルールの中で定義することができます。
feature-group	(任意) 機能タイプを指定します。
<i>group-name</i>	機能をグループ化したもの。このグループに対するアクセス権をルールの中で定義することができます。
command	このルールにコマンドを指定します。
<i>command-name</i>	単一のコマンド、または 1 つの正規表現で表現されるコマンドの集合。このコマンドに対するアクセス権をルールの中で定義することができます。

デフォルト

なし

コマンド モード

ロール コンフィギュレーション (config-role)

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

rule number は、そのルールが適用される順序を指定します。ルールは番号の降順で適用されます。たとえば、あるロールに 3 つの規則がある場合は、最初に規則 3 が適用され、次に規則 2、最後に規則 1 が適用されます。ロールごとに最大 256 のルールを設定できます。

例 次に、**clear users** コマンドへのアクセスを拒否するルールを作成する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# role name UserA
n1000v(config-role)# rule 1 deny command clear users
n1000v(config-role)#
```

次に、ルール 1 の設定を削除する例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# role name UserA
n1000v(config-role)# no rule 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
username	ユーザに関する情報を設定します。
show role	ユーザ ロールの設定を表示します。

run-script

ファイルに保存されているコマンド スクリプトを実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

run-script {**bootflash:** | **volatile:**} *filename*

構文の説明

bootflash:	コマンド スクリプトが格納されているファイルがブートフラッシュ ファイル システム内にあることを示します。
volatile:	コマンド スクリプトが格納されているファイルが揮発性ファイル システム内にあることを示します。
<i>filename</i>	コマンド スクリプトが格納されているファイルの名前です。名前では、大文字と小文字が区別されます。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意

サポートされるユーザ ロール

ネットワーク 管理者
ネットワーク オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SV1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、揮発性ファイル システムの **Sample** ファイルに保存されているコマンド スクリプトを実行する例を示します。

```
n1000v(config)# run-script volatile:Sample
n1000v(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	作業ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリの名前を表示します (pwd)。

